



国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

- 創 立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
- 会 長■ 大塚 裕正 ■幹 事■ 岡田 敦志 ■会報委員長■ 小林 透
- 事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2021-22年度

第2750回

2021年10月1日(金)点鐘12時30分 (大雨)

- ◆国家斉唱 『君が代』
- ◆ロータリーソング『奉仕の理想』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

- 本日はいらっしゃいませでした。

◆会長挨拶及び報告 大塚 裕正会長



理事会報告

- 忘年家族例会について
⇒12月18日(土)18:00 点鐘
- 第18回国際里山の集い
⇒2022年4月頃開催予定
- 創立60周年記念事業について
- 千葉県いのちの電話協会30周年記念チャリティーコンサート協賛広告
⇒5,000円×2口を協力する

◆委員会報告

出席委員会より (末吉弥和委員長)
2020-21 下期分皆出席賞 12名

◆幹事報告 岡田 敦志幹事

10月31日(日)の地区大会ですが、コロナの感染防止のため、会長・幹事のみ参加となりました。会員の皆様は動画配信となります。

◆出席報告 (会員数44名)

出席者数	欠席者数	ピジター	9/17 修正出席率
29名	15名	0名	100%

◆ニコニコボックス報告

●大塚裕正会長、岡田敦志幹事

本日より緊急事態宣言が解除され、通常通りの例会の開催となります。久しぶりにメンバーの皆様の元気な顔が見られ大変嬉しく思います。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

●伊藤和夫会員

千葉南ロータリークラブ会員の皆さん、お待たせいたしました！「いとう米」ができました。先日、会員の皆さんに稲刈りを手伝っていただき、有難うございました。

ロータリーの「四つのテスト」のひとつ“みんなに公平か”ということで、全員に新米をお配り致します。例会の帰りにお持ち帰り下さい。ご家族の皆さんと楽しいお食事のひとつに役立てていただければと思います。

有難うございます。

●五十嵐博章会員

伊藤さん、今年もまた美味しい「いとう米」を有難うございます。

●加藤隆章会員

久しぶりの例会参加です。皆さんにお会いするのは稲刈り以来です。その稲刈りで収穫したお米「いとう米」を有難うございます。ぜひまた参加したいです。

●前島孝夫会員

お待たせしました！今年度の活動計画書が完成しました。表紙のオレンジは、大塚会長のお好きな色として選んでいただきました。一步一步着実に進むイメージで右方向へのグラデーションのデザインにしました。

本日のニコニコボックス	8,000円	累計	96,000円
金の箱	446円	累計	2,683円

◆誕生日・結婚記念日お祝い

【誕生日お祝い】

出井 清会員、齋藤良堯会員、稲葉隆文会員
戸井田泰明会員

【結婚記念日お祝い】

塩谷邦昭会員、石井慎一会員、出井 清会員
戸井田泰明会員、三神秀樹会員、花澤 衛会員



本日の卓話

『千葉南ロータリークラブ・60周年記念について』

水野 浩利会員



60周年年度の会長を仰せつかった関係で、今回卓話をさせていただきましたこととなりました。

60周年プロジェクトの人選においては、以前の理事会にて実行委員長として、斎藤昌雄会員にお願いすることが決定しています。

そして、本日の理事会において、記念例会を実施すること、記念事業を実施することが決定いたしました。

今後のプロジェクトの流れとしては、記念例会や事業を行う上で、具体的な施策の企画や実行を行う「実行委員会」に分けてプロジェクトを円滑に進めていくことと思えます。

そこで、今回の例会での卓話の内容としては、周年記念事業の役割の考え方と、今後進めていく上での皆様からのご意見を頂戴出来ればと思えますので、宜しくお願い致します。

1. 千葉南ロータリークラブ(以下クラブ)周年記念事業の役割とは？

まずは、周年記念事業の基本的な概念を考えました。「周年」というと、式典やイベント開催、クラブ史作成・記念品の配布をイメージされる方が多いのではないのでしょうか。かつての周年事業は、「メンバーや関係団体、関係クラブなどに、クラブ活動への感謝を表し、併せてクラブのビジョンや未来像を披露するコミュニケーションイベント」と認識されていました。

そのため、記念講演会・懇親パーティ開催などの式典が記念事業の大半を占め、事業期間も1日～数日程度で終了するのが普通でした。

しかし、現在では「周年事業」の果たす役割はさらに広い意義を持ち、重要性を増してきています。周年事業はクラブに変化を起こす絶好の機会であり、クラブの成長を促す、変化を巻き起こす、そして最大限活用すべき機会とみなされています。変化と聞くと、今が駄目が変わらなくてはいけないのかと考えられる方もいらっしゃると思うのですが、そうではありません。現在の状態をより良い魅力のあるクラブにして行くための変化です。

「変化」はクラブによってさまざまですが、一例と次のような効果が考えられます。

- ・クラブとしての一体感の醸成
- ・新理念・新行動指針策定と浸透
- ・ロータリーブランドの再構築、新しい明確なイメージ作り

2. なぜ周年は変化を起こす絶好の機会といえるのか？

周年を契機にした変革は、実施の機運を高め、納得感を得やすくなります。つまり、良い意味で周年は都合の良い「理由」とすることが出来ます。それだけでなく「周年」であるが故にクラブ外の注目度が高く、プロモーションもしやすくなります。

また「周年」に向け、事前に様々な準備していくことで、クラブの結束力も強まりやすくなります。そして、その結束力が会員拡大などにつながればと考えます。

3. 周年記念事業とは何をするものか？

従来の周年記念事業は、主に下記のような形態が多く行われているようです。

【従来の主な周年事業形態】

《セレモニー事業型》

祝賀会、レセプション、記念品配布等

アーカイブズ(保存記録)事業型

周年誌発行とクラブアーカイブズ整備等

《PR事業型》

記念キャンペーン、企業ミュージアム開館等

社会貢献事業型

各種文化・社会福祉事業開始等

上記のいくつかを選択するのが主流なようです。しかし、現在は型がどんなことをするのか決まっているわけではなく、さまざまな形態を複合的に組み合わせた独自の「創作型」の周年事業が主流になりつつあるようです。

今後の手順を考えていく前に、50周年の時はどのような事業を行ったのかを過去の会報を紐解きご紹介いたします。

当時の会長は斎藤昌雄会員、実行委員長は他界された野城友三氏が務められました。

オークラ千葉ホテルにおいて開会宣言、斎藤会長の厳粛なご挨拶の中で、周年の方針を一部抜粋してご紹介いたします。

千葉南ロータリークラブは26名のメンバーで設立し、20年前の30周年時には94名の会員数でしたが、40周年時には59名となり、その後減少するばかりで3年前にはついに34名になってしまいました。

そこで、「50周年を50名の会員で迎えよう」という目標を掲げ、全会員が会員増強に英知と努力を注いだ結果、ここに50名の会員達成が叶いました。50年を振り返り、設立時の先輩諸兄の思いに心を馳せ、先輩各位のご努力を受け継ぎ、次なる歴史を築くため50名の会員の力を結集し、更に愛情深く守り育ててまいりたいと思っております。(中略)今日、戦争、飢餓、自然災害の脅威がこの地球上の至る所にとめどなく押し寄せ、平和な世界への道をふさいでいます。世界には多くの犠牲になられた方々、不幸な方々がたくさんおります。私達が互いに支えあい奉仕活動が出来ますことは、人としての使命であると思えます。私達、千葉南ロータリークラブ会員はこの50周年を機に地域に根ざした奉仕活動は勿論のこと、

会員一人一人がロータリアンとしての自覚を高め、誇りを持ち「世のため人のため」に尽力し更なる発展に努めて参りたいと思います。

と、おっしゃっています。

また、野城50周年実行委員長においては、周年事業について次のようにお話しされています。

創立記念事業に当たりましては、3年前に実行委員会を立ち上げ、内容については全会員が一体となって検討し、成功するよう努力してまいりました。

記念事業としまして、

1. 千葉市・支川都川「水の里公園」に合計50本の桜の苗木を植樹致しました。植樹に際しましては、NPO法人「都川の環境を考える会」の皆様には大変なご尽力をいただきました。立派な花を咲かせ、市民の皆様にあえて頂けますようお願いしております。
2. 長年支援しております、千葉県指定知的障害者支援施設・「ひかり学園」に食堂用テーブル3台を寄贈致しました。寄贈に際しましては、地区補助金を利用させて頂きました。
3. 親交クラブの東仁川ロータリークラブ(韓国)からの申し入れを受け、グローバル補助金事業を行いました。この事業は、韓国仁川市の障碍人再活協会コンピューター教育 施設のコンピューターが老朽化したため、新しく導入するというものです。等々、お話がありました。

このような内容を踏まえて事業に向けて数年前から準備をしていかななくては成り立たないことが伺えます。

60周年事業の実施時期は、1964年3月2日が承認日ですので、期は2024年3月頃となります。

今後のスケジュールを考えてみました。

【1】準備段階(周年2~3年前)

- ・周年方針の決定
- ・一次予算の決定
- ・体制の決定

周年の内容をセッションして、想いや周年の捉え方、周年後のクラブビジョン(中長期)を考え、周年の方針のヒントとする。

周年の方針として、クラブにとってあるべき未来のために、誰がどのように変化すれば良いかを整理する。

各実行委員会の担当をお願いして、どのようなルートで行けば良いか、周年の方針に沿ってどんな体制にすれば良いかと検討する。

準備段階の最後に「周年の方針」「一次予算」「体制」などを書面化して方向性を決める。

【2】設計フェーズ(周年1年前)

- ・コンセプトの決定
- ・各企画を立案、決定、構築
- ・実行委員の巻き込み
- ・予算の本決定

周年コンセプト決定後、スケジュールを作る。

メンバー自ら企画立案を行う。

実行委員の啓発・モチベート。メンバー同士のコミュニケーション活性化する。

周年の意義を理解して頂き、成果にコミットメントしてもらう。

周年コンセプトの洗い出しは、

「クラブの過去を振り返り」→「クラブのありたい未来の姿を検討」→「クラブの今の姿、何を変えるべきか」という「過去、未来、現在」の三つの段階に分けて実施していく。

コンセプトに合った複数のメディア(千葉日報・千葉テレビなど)と場作りを年間通じて連動出来れば、尚良いと思います。

【3】実行フェーズ(周年:当年)

- ・各企画の実施
- ・全メンバーの巻き込み(幽霊メンバーの参加)
- ・目的の実現

【4】周年後の流れ(周年の翌年以降)

- ・成果の持続
- ・さらなる発展のための施策実施

以上が周年事業に向けての今後の流れとなしますが、皆様からの実施内容などに関してのご意見がいただけますと幸いです。

周年に向けては、メンバーの皆様のご協力のもと迎えたいと思いますので宜しくお願い致します。

(卓話原稿は、水野浩利会員より頂戴しました。)



(50周年時に撮影)

第2751回例会

日時⇒ 2021年10月8日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『自己紹介』

米山奨学生 ラシライネン ヴェルナ エリサさん

第2752回例会

日時⇒ 2021年10月15日(金) 点鐘12:30

卓話者⇒ 落語家 月の家 小圓鏡様

◀写真担当：今井 太志▶